



荒瀬潔社長(中央)に全国大会出場を報告した八戸学院大女子サッカー部のメンバー。左から奥山紗良、根本ひかるの主将、小川啓示監督(左から4人目)、渋谷帆香コーチ=6日、八戸市のデーリー東北新聞社

八学大女子サッカー部 悲願の「全国1勝」へ

インカレ24日開幕前に決意

24日に兵庫県で開幕するサッカーの第30回全日本大学女子選手権(インカレ)に東北地区第1代表として出場する八戸学院大の関係者が6日、八戸市のデーリー東北新聞社を訪れ、悲願の「全国1勝」へ闘志を燃やした。

4チームで争った今秋の東北地域大学リーグ(9月

25日~10月23日)は2勝1分けで、2013年の創部以来初の優勝を飾るとともに、7年連続7度目のインカレ出場を決めた。今年のチームはサイドからの突破力が高く、ライバルの仙台大戦では大量5点を奪って快勝した。

本社は、小川啓示監督ら5人が荒瀬潔社長と懇談

した。小川監督は「初めて東北第1代表で挑む全国大会。初戦は攻撃力で圧倒したい」と、24日の1回戦(京都・明治国際医療大戦)へ意気込みを示した。

1回戦で敗れた昨年もメンバー入りしていた同市出身のMF根本ひかる主将(4年)は「仙台大戦のような戦いができれば、全国でも通用するはずだ。主将として、プレーでも姿勢でもチームを引っ張り、全国1勝を目指して頑張る」と抱負を語った。

これに対し、荒瀬社長は「全国大会で頑張って、地域の女子サッカーを盛り上げてほしい」と激励した。

(向屋敦萌)